

維新史回廊だより



第31号
2019年
3月発行
年2回発行

■編集 維新史回廊構想推進協議会
■発行 山口県観光スポーツ文化振興課
(山口市滝町一丁目 TEL 〇八三一九三三二二六二七)

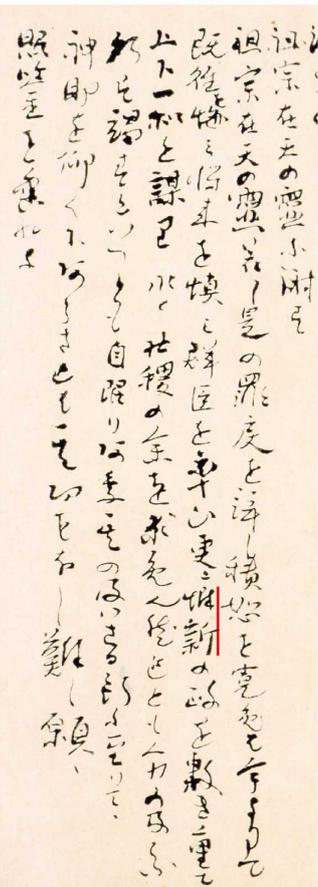
維新史回廊だより第31号をお届けします。

「明治一五〇年」の節目の年を終えて、今回は、広島大学名誉教授の
三宅紹宣先生に明治維新からの一五〇年を総括していただきました。

明治維新一五〇年を振り返って ～明治維新が現代の我々に遺したもの～

Q1 明治維新とは何でしょうか。

明治維新は、一九世紀後半、西洋列強による対外的危機に対して、国家の独立を保つため、封建国家を解体し、より強力な近代国家を樹立した変革過程です。「維新」は、『詩経』の「維こ維た新たなり」に由来します。つまり、「維新」には既に変革の意味が込められています。明治維新を Meiji Restoration (復古) と英訳することがよくありますが、これは王政復古から連想したことによる間違いで、Meiji Revolution (革命)、またはそのほか Meiji SHIN とお呼びなす。



Q2 一九世紀の対外的危機とはどのようなものですか。

十九世紀の西洋諸国が掲げる国際法は、世界を「文明国」(西洋諸国)、「半文明国」(日本、中国など)、「未開」(アフリカ地域など)の三群に区分し、「文明国」が、「半文明国」、「未開」を征服・占領するのは合法だとしていました。日本は、「半文明国」に位置づけられ、植民地化の対象とされていました。

植民地化の方法は、交渉により貿易を開始して、徐々に国の主権を奪うものか、戦争に勝利して、国の主権を奪うかというものでした。当時の世界第一の強国イギリスは、「自由貿易帝国主義」と呼ばれている政策をとっていました。これは、不平等条約を押しつけた上で自由貿易を追求し、それが不可能と判断した場合は、戦争など武力を通じて直接支配するものでした。したがって、ある時代に限っては一見安全に見えても、そこには常に対外的危機が存在していました。

幕末期における植民地化の危機は無かったとする説があります。これは一時期に限ってはそのように見えても、文明国が半文明国を植民地にする原則が無くなった訳ではありません。イギリスは、日本占領のシミュレーションを作っており、対外的危機は常に存在しました。

「毛利敬親の告文」野田神社蔵

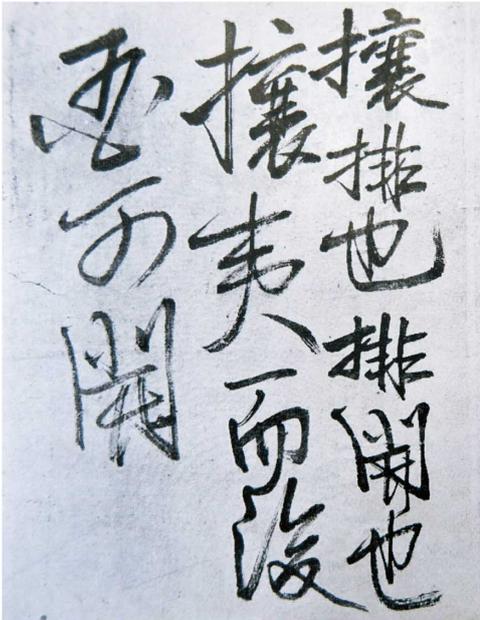
一八六五年(元治二)二月二十二日、内戦が終息すると、長州藩主の毛利敬親は、告文を毛利家靈社に奏上し、「維新」の政治を行うことを誓っている。「維新」用語の早い事例として注目される。

Q3 対外的危機に対してどのような反応が起こったのですか。

一八五三年のペリー来航によって、激動の時代に入りました。幕府は戦っても負けると判断し、翌年、日米和親条約を結びました。

最近、幕府の役人は無能ではなかったという説が出されていますが、それを過大に評価しすぎると、結ばれた条約が不平等条約であったという本質が見えなくなります。アメリカは自国の貿易に関係の無い品目については、高い関税を容認しました。しかし、イギリスは主要輸出品の綿織物・毛織物については、5%の低関税を押しつけています。綿織物が大量に入ってきて、日本の綿織物業は破綻しました。不平等体制からの脱却は、明治国家の重要な国家課題になっています。

幕府の対外政策は、当面は安全なようにみえても、次第に植民地化されて実には危険なものであり、国家の独立は保てないと考えた勢力は、西洋列強への対抗姿勢としての攘夷、結集のよりどころとしての天皇を尊ぶ尊王をとなえました。尊王攘夷は主体的外交の構えであり、将来の開国は想定していました。そのため、留学生を派遣するなど、積極的に西洋文明を学ぼうとしました。幕府との違いは、言われるままに開国するか、主体的に開国するかです。



周布政之助の書

「攘夷して後、国を開くべし」という対外方針を簡潔に示す。

『偉人周布政之助翁伝』

(有朋堂書店、1931年、
国立国会図書館蔵)

西洋列強

外庄

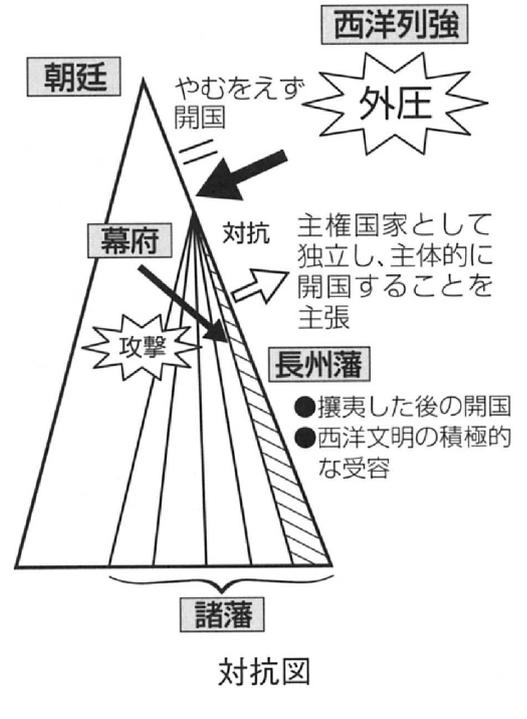
朝廷

幕府

長州藩

諸藩

対抗図



三宅紹宣『明治維新の変革過程』
(萩ものがたり、15頁引用)

Q4 幕府と尊王攘夷運動の対立はどのように展開したのですか。

幕府は、自己の政策を批判する尊王攘夷運動を弾圧しましたが、攘夷運動は拡大していきました。その底流には、一八五九年、貿易の開始により経済破壊が起こり、生活を困窮させる原因を作った幕府を批判する民衆の広範な動きがありました。幕末の政争は、実は広範囲な社会変動が底流にあったことに留意する必要があります。

Q5 幕府はなぜ諸勢力から見限られていったのですか。

幕府は、対外的危機に対して諸大名と協力して対応しようとして、参勤交代を続けさせました。参勤交代は、幕府の大名統制の根幹です。大名が江戸にいる年は、国元の対外防備が手薄となるため、一八六二年、一部緩和されました。しかし、一八六四年に幕府強硬派は、参勤交代の復旧を諸大名に命じました。これは、挙国一致体制よりも、大名統制のほうを優先させたものであり、幕府の公共性の欠如が象徴的に表れています。

また幕府は、西洋諸国に対し、幕府が日本を代表する政権であることを説明するのに、参勤交代による大名統制を事例にあげています。

Q6 幕府はどのように倒れたのですか。

一八六四年の第一次長州出兵では長州藩の制圧に動いた西郷隆盛は、幕府を見限り、諸大名の雄藩連合による政治を目指し、長州藩と連携する方針に転換しました。諸藩の内部では、幕府批判を強める勢力と、幕府に依存したほうが藩は存続できるとする勢力が対立しました。幕府批判運動は、藩内の佐幕勢力を押さえつつ、幕府という強大な全国勢力に立ち向かっていく困難な道程でした。

長州藩は、独立を保つために尽力したという正当性の論理を動揺させることなく、幕府が発動した第一次長州出兵、一八六五年の第二次長州出兵、一八六六年の幕長戦争（四境戦争）に耐え、勝利し、幕府の軍事政権としての権威を失墜させました。

幕府は直ちに倒れた訳ではありませんが、一八六七年には幕府を見限った勢力によって藩のレベルで討幕運動が起こりました。討幕運動は当初は少数勢力だったので、可能な限り諸勢力との妥協を図りました。また、十月に徳川慶喜が大政奉還をしたため、まずはその内実を見てからとする考えが公家達に広がりました。そこで手順を修正し、諸大名の会議により政治を進めていこうとする勢力の協力を得て、十二月に王政復古政変を行い、新政府が成立しました。討幕は、一八六八年、徳川家を静岡藩という一大名にすることに よって達成されました。

Q7 なぜ小さな勢力が幕府を倒すことが出来たのですか。

小さな勢力が幕府を倒すことが出来たのは、長州藩が幕長戦争に勝利した原因の中に、象徴的に表れています。長州藩の勝因は、西洋式武器を使ったという単純なものではありません。幕府直轄軍や和歌山藩軍の西洋式兵器は、長州軍の兵器と互角のレベルであり、とりわけ海軍力においては、幕府は、当時最新鋭の大型蒸気軍艦をそろえており、長州藩を圧倒していました。

両者が決定的に違つるのは、長州軍が散兵戦術など西洋式戦法に習熟し、それを十分に使いこなしたという点、つまり兵士の自発性を最大限に引

き出した質の差にありました。長州藩では、身分制を取り払い、だれでも指揮官になれるという自覚の中で訓練に励んでいました。幕府軍は、兵士はいくら勉強しても指揮官になるのは困難でした。この差が、小さな長州藩が、幕府の大軍に勝利出来た原因です。

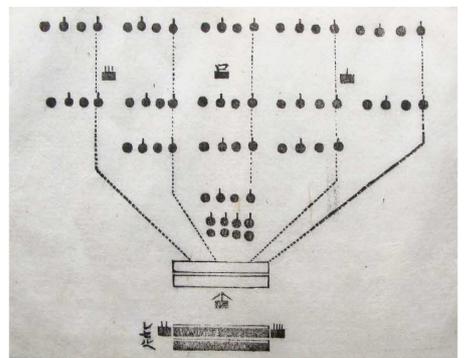
このことは、とりもなおさず両政治勢力の歴史的な性格の差につながってきます。封建身分制の維持を前提とする幕府・諸藩と、それを克服し、諸階層の活力を引き出し、近代国家の成立を目指そうとする長州藩の差は、時代の動きを象徴するものです。

Q8 明治政府はどのような国家作りを目指したのですか。

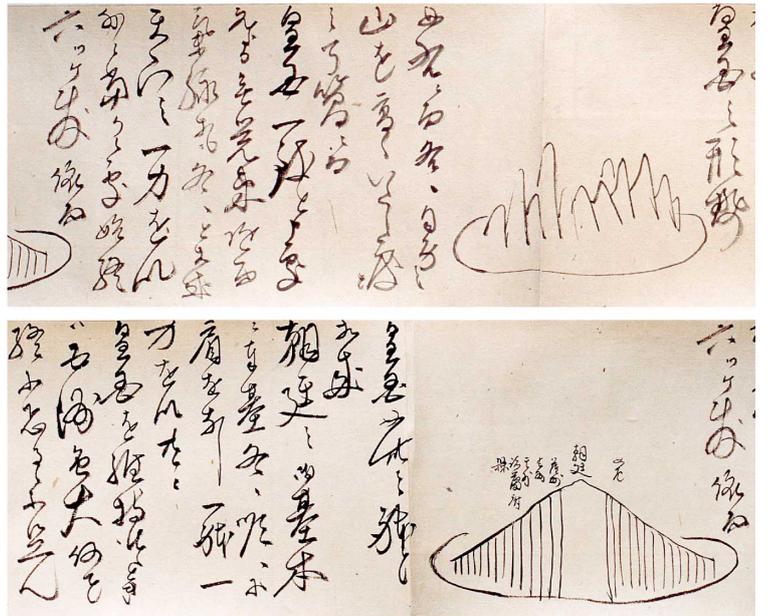
明治政府は、開国和親の方針をとりましたが、万国対峙を国家目標にかかげ、独立が保てる強力な近代国家の建設を目指しました。一八七一年には、廃藩置県を行い近代国家の体制を作りました。国家作りのためには民衆の活力を引き出そうとし、封建身分差別を撤廃しました。ただし、一挙に民主主義国家ができた訳ではなく、民衆抑圧や専制的支配の面は残っていました。

また、より大きな目標は西洋諸国に対抗することですから、国内の戦争が終わると、出来るだけ旧幕府勢力などとの融和を目指し、協力して国家を作ろうとしました。

近代国家体制を樹立した後、一八八九年、明治憲法制定により立憲君主国となり、近代法の整備により、文明国側に入りました。これらのことにより幕末以来の不平等条約は解消され、主権国家として独立を保つという目標は達成されました。



『散兵教練書』散兵前方展開の図 (山口県立山口図書館蔵)



明治元年十一月十五日、野村素介宛木戸孝允書簡
(山口県立山口博物館蔵)

日本国が一つの山のようになり、朝廷の基本に基づいて
おのおの順々に肩をなし、一体一力を以て共に日本国を維
持すべきであると述べる。
木戸の国家構想を簡潔に示す。

Q10 明治維新の負の面はありますか。

近代国家が共通して持つわけですが、封建時代には政治に関与できな
かった民衆の活力が引き出されるようになると、人々が政治に関心を持
ち、一方でナショナリズムが高揚します。このエネルギーが海外膨張に
つながってくるようになります。このことは、明治維新の負の面として
常に厳しく見つけておく必要があります。

Q11 明治維新一五〇年を振り返って、明治維新が現代の我々に遺し
たものは何ですか。

二〇一八年は、明治に改元した一八六八年から一五〇年といことで、
さまざまな取り組みが行われました。明治維新は、現代の社会のもとを
築いた変革です。それによって近代的な国家体制・法律が整備され、産
業革命によって近代産業の基盤ができました。一挙に民主主義国家に
なった訳ではありませんが、歴史は段階をおって進展していきます。個
人の活力が発揮できる社会が実現し、それが現代につながっています。

時間に節目を設けて過去を振り返ることは、現在の問題を考えるうえ
で意義深いことです。明治維新一五〇年の取り組みを、単なるイベント
に終わらせず、どのように時代を切り開いていったかを大局的な見地か
ら考えるべきです。そしてその研究結果を記録に残し、さらに次の二〇
〇年記念に伝える必要があります。また明治維新を分析する歴史史料の
保存が必要で、現在、史料のデジタルアーカイブ化の取り組みが行われ
ていますが、さらに拡大し、史料を後世に伝えていくことも大事です。

(参考文献) 三宅紹宣『明治維新の変革過程』

(一般社団法人萩ものがたり、二〇一八年)

維新史回廊だよりは、県内各市町の文化振興担当課や博物館・資料
館、県政資料館等に置いています。

既刊号は、維新史回廊ホームページ(維新史回廊だより)で検索
で御覧いただけます。

Q9 明治維新で評価できることは何ですか。

明治国家が出来て耕地改良など大規模な社会資本の整備が進み、農業
改良によって農産物の収穫量が増大し、逆に租税負担が減少してくると、
人々の食料摂取力ローリーが一八〇〇キロカローリーから二三〇〇キロカ
ローリーに増大しました。これにより飢饉があっても基本的には餓死者が出
ない社会が実現しました。江戸時代の人口三〇〇〇万人が、明治末には
五〇〇〇万人に上昇しました。また、男女の人口比率は、江戸時代は人
工的に手が増えられて、女性が男性より少なかったのですが、明治末に
はほぼ等しくなりました。地味な変化ですが、食料摂取量の向上は、民
衆の視点から評価できると思います。